



# 「韓国人・朝鮮人生徒学生の嫌がらせ体験に関する意識調査」報告書

朝鮮奨学会は2019年12月から2020年2月にかけて、「韓国人・朝鮮人生徒学生の嫌がらせ体験に関する意識調査」を実施した。この報告書は、その結果をまとめたものである。

## 1 調査の概要

「韓国人・朝鮮人生徒学生の嫌がらせ体験に関する意識調査」の具体的な調査概要は下記の通りである(表1)。調査方法の特徴はインターネットを活用したことである。短大生・大学生・大学院生にはメールで案内状を送り、QRコードを用いてインターネット上の質問ページに誘導し、回答を行うようにした。高校生・

高専生には挨拶状を郵送し、同封した質問紙か、インターネット上の質問ページのどちらかを選択して回答を行うようにした。高校生・高専生に対して郵送を併用したのは、インターネット上の質問ページの回答に必要なパソコンまたはスマートフォンを回答者が所持していない可能性を考慮したためである。

表1 調査の概要

調査名	「韓国人・朝鮮人生徒学生の嫌がらせ体験に関する意識調査」
調査テーマ	韓国人・朝鮮人生徒学生のヘイトスピーチをはじめとする被差別体験
調査対象	朝鮮奨学会の奨学生
調査対象の単位	個人
調査時点	2019年12月～2020年2月
抽出方法	全数
調査方法	・短大生・大学生・大学院生はインターネットを利用した自記式調査 ・高校生・高専生は、インターネットを利用した自記式調査と、郵送配布・郵送回収の自記式調査からの回答者による選択

調査票の配布数と回収数、有効回収数は下記の通りである(表2)。調査時点における奨学生は高校生・高専生が620名、短大生・大学生・大学院生が877名の計1497名である。このうちメールの未達などを除いた1484名に

挨拶状が配布された。これが今回の調査の母集団となる。最終的な有効回収数は1030件であり、有効回収率は69.4%になる。今回のように強い強制力をもたない民間による自主的調査としては高い回収率と言える。

表2 配布数と回収数

	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
高校・高専	620	494	79.7%	488	78.7%
短大・大学・大学院	864	542	62.7%	542	62.7%
合計	1484	1036	69.8%	1030	69.4%

## 2 嫌がらせ体験の実態

### 2-1 全体の状況

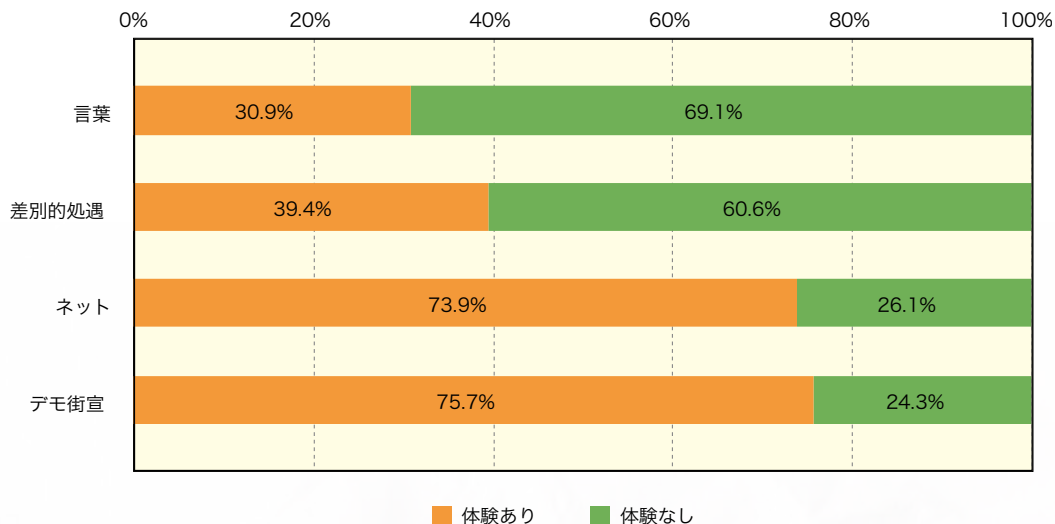
局面ごとにみられる差別現象は、差別扇動を含むヘイトスピーチ、「外国人立ち入り禁止」などが典型的差別的処遇、暴力を含むヘイトクライムに大別することができる。これを踏まえ、調査では4種類の嫌がらせ体験に関する質問項目を設けている(表3)。

表3 嫌がらせ体験の種類と質問番号

質問項目	質問番号	内容
言葉による嫌がらせ体験(言葉)	Q8	主に対面状況におけるヘイトスピーチ
嫌な思い(差別的処遇)	Q9	公的機関や住宅利用などにおける差別的処遇
ネット上での嫌な体験(ネット)	Q10	主にインターネット上におけるヘイトスピーチ
ヘイトデモ・街宣の見聞き(デモ街宣)	Q11	主に路上におけるヘイトスピーチとヘイトクライム

これら4種類の嫌がらせ体験の有無についてまとめた(図1)。利用した質問と選択肢は「言葉」Q8⑦h、「差別的処遇」Q9②h、「ネット」Q10②h、「デモ街宣」Q11②hの「言葉による嫌がらせを言われたことはない」「そういう体験はまったくなかった」である。

図1 嫌がらせ体験の種類と有無



集計の結果、種類ごとの嫌がらせ体験を有する者の割合は、「言葉」が30.9%、「差別的処遇」が39.4%、「ネット」が73.9%、「デモ街宣」が75.7%である。「言葉」「差別的処遇」の経験者の割合が相対的に少ない一方で、「ネット」「デモ街宣」の経験者の割合が多い。差別と一言でいうが種類ごとに体験の有無の割合が異なることがわかる。

「ネット」「デモ街宣」の数値の大きさに注視する必要がある。現在の日常生活においてインターネットは頻繁に利用される必需品となっている。そのような日常生活の避けがたい局面において、約7割の者にネット上での嫌な体験が

あるということは、回答者たちの多くが日常的に差別にさらされているということの意味する。一方で、ヘイトデモやヘイト街宣が日本社会において注目を集めるようになったとはいえ、一般の人々が大きな関心を払っているとは必ずしも言えない。これを踏まえると、約7割の者が「デモ街宣」を体験しているという結果は、差別現象の非対称性を鮮明に示していると言える。

「言葉」「差別的処遇」の割合はその他のものに比べると少ないが、体験を有する者が3割を超えている。過去から見られる暴言や嫌がらせが、未だに根強いことがうかがえる。

## 2-2 性別による違い

嫌がらせ体験についての性別による違いが顕著に現れるのは、とくに自分自身が直接被害者となる「言葉による嫌がらせ体験」と「嫌な思い(差別的処遇)」である。このうち「言葉による嫌がらせ」では、女性の17.2%が「よくある」「少しはある」と答えているのに対し、男性の同様の回答は12.7%にとどまる(図2-1)。

また「嫌な思い(差別的処遇)」についても、

「学校」でそうしたことが「よくある」「ややある」と答えた女性が16.4%だったのに対し、男性では9.4%にとどまった。「アルバイト先」では性別による違いはさらに大きくなり、女性が8.3%であるのに対して男性は3.7%だった。また「不動産」については女性3.7%、男性3.9%とほぼ変わらないが、「お店・交通機関・役所など」では女性が9.9%、男性が4.3%と、やはり違いが目立っている(図2-2)。

図 2-1 性別×言葉による嫌がらせ体験 (Q8-1)

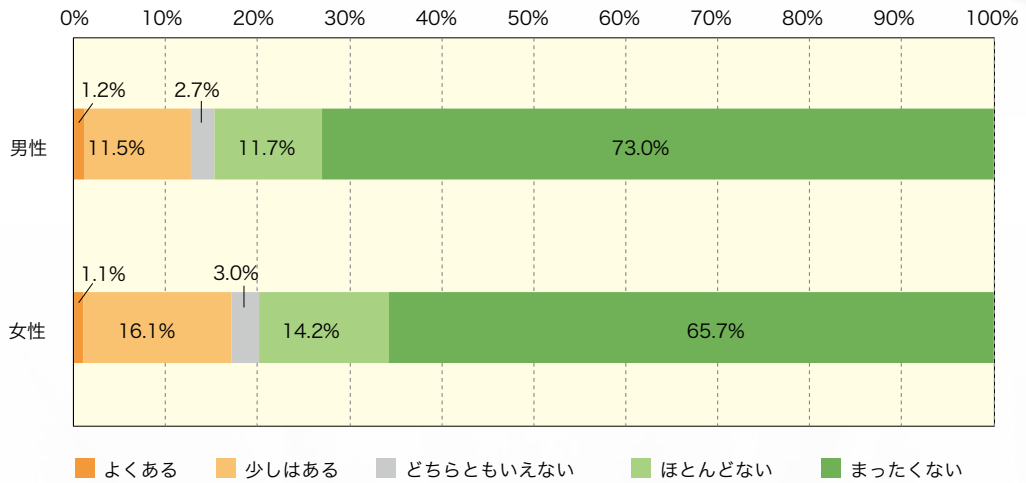
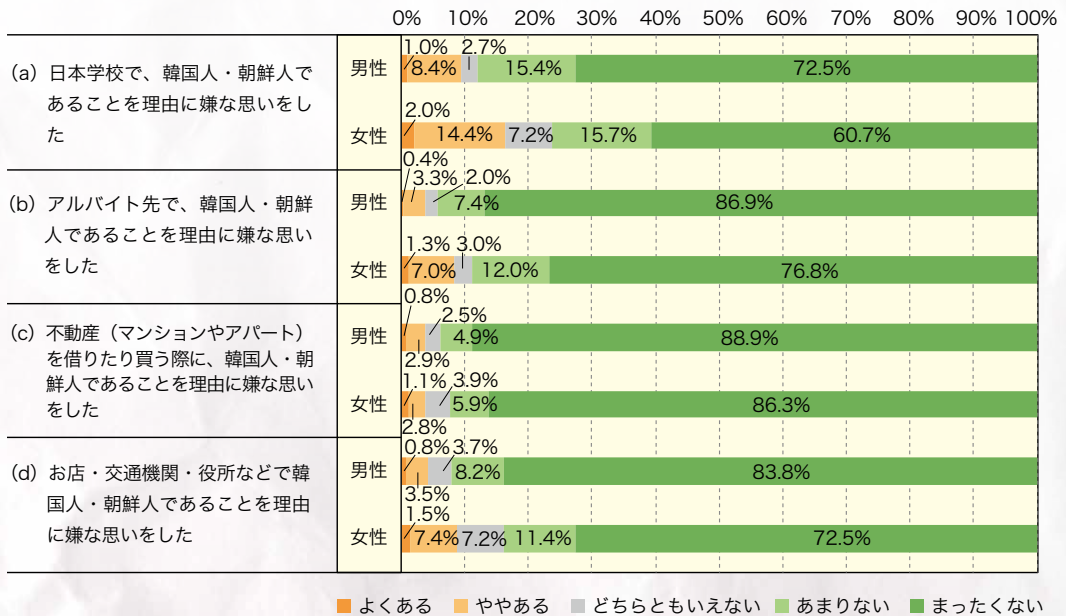


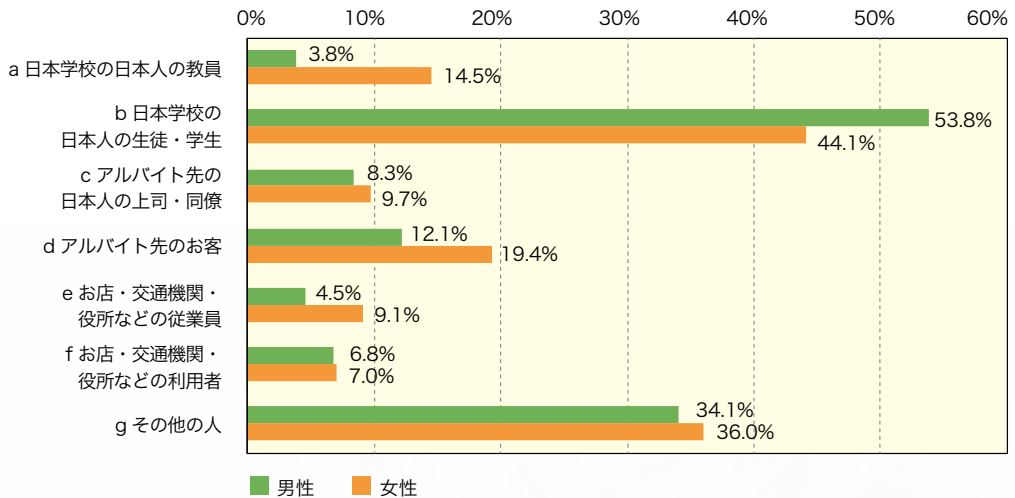
図 2-2 性別×嫌な思い (Q9-1)



またとくに言葉による嫌がらせについては、そうした嫌がらせを誰が行ったかについても、性別による違いが明確に表れている。たとえば「日本の学校の日本人教員」については、女性の14.5%が言葉による嫌がらせを受けたことがあると答えたのに対し、男性は3.8%だった。また「アルバイト先のお客」についても、女性

が19.4%であるのに対して男性は12.1%である。また「お店・交通機関・役所」についても、女性9.1%、男性4.5%と大きく差がついた。男性のほうが割合が高かったのは「日本学校の日本人の生徒・学生」（女性44.1%、男性53.8%）のみだった（図 2-3）。

図 2-3 性別×言葉による嫌がらせの相手 (Q8-2)



さらに言葉による嫌がらせについては、「嫌がらせを止める人」と「相談相手」についても性別による違いが見られた。まず止める人については全般的に男性のほうが女性よりも肯定的な回答が多かったが、逆に「誰も止めてくれなかった」と答えた人は、女性 57.0%、男性

43.2%と女性のほうが高かった(図 2-4)。逆に「相談相手」については全般的に女性のほうが肯定的な回答が多く、逆に「誰にも相談していない」と答えた人については、男性 (53.8%) が女性 (32.3%) を大きく上回る結果となった (図 2-5)。

図 2-4 性別×言葉による嫌がらせを止める人 (Q8-4)

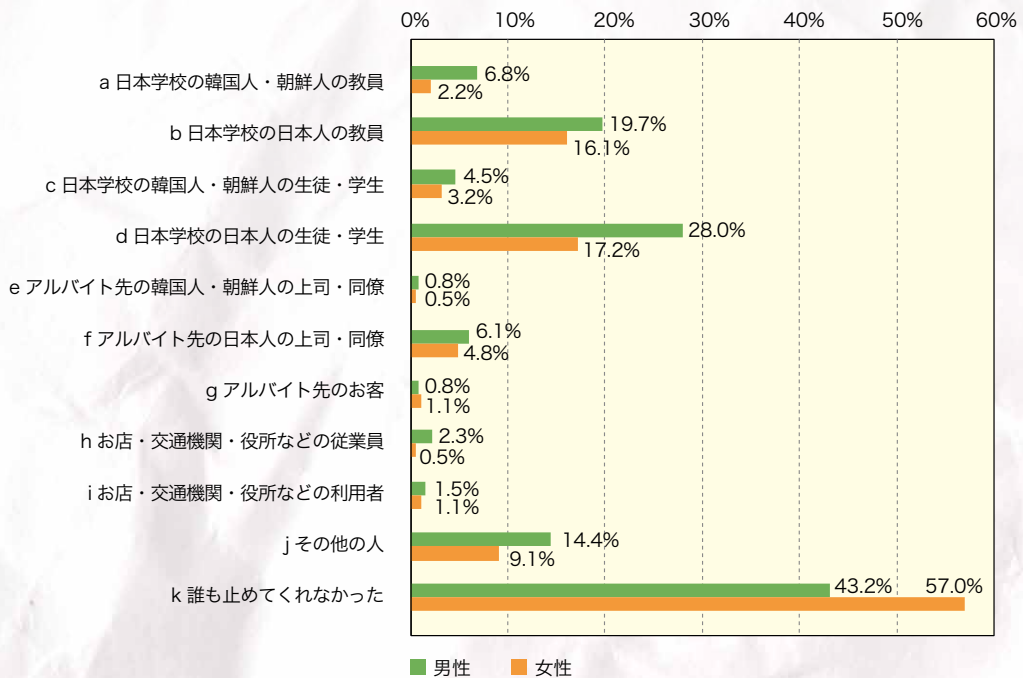
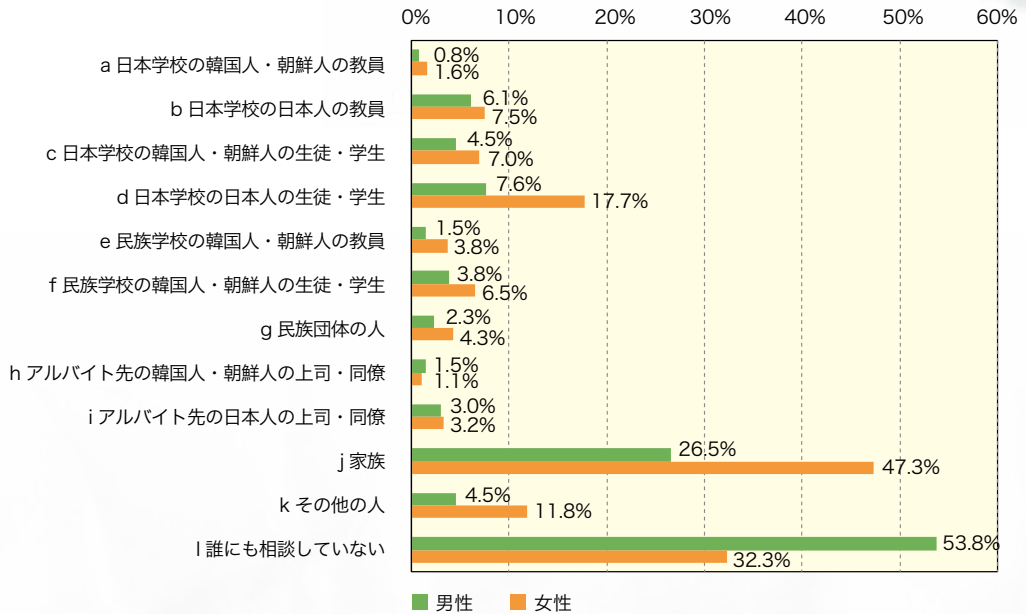




図 2-5 性別×言葉による嫌がらせの相談相手 (Q8-5)



### 2-3 教育課程 (高校か大学か) による違い

嫌がらせ体験については、教育課程による違いも大きい (なお以下、高校および高専に在学する生徒を「高校生など」、短大・大学・大学院に在学する学生を「大学生など」と表記する)。

たとえば「言葉による嫌がらせ体験」については、高校生などの11.9%が「よくある」「少しはある」と答えたのに対し、大学生などは17.9%が同様の回答をしている (図 3-1)。また「嫌な思い (差別的処遇)」についても、「学校」

について「よくある」「ややある」と回答した高校生などが12.1%に対して大学生などが14.0%とそこまで差がなかったが、他方で「アルバイト先」(高校生など0.6%、大学生など11.1%)、「不動産」(高校生など0.4%、大学生など6.9%)、「お店・交通機関・役所など」(高校生など3.7%、大学生など9.4%)と、大学生になって社会生活の範囲が広がるにつれ、嫌な思いをする可能性も高くなるという結果になっている (図 3-2)。

図 3-1 教育課程×言葉による嫌がらせ体験 (Q8-1)

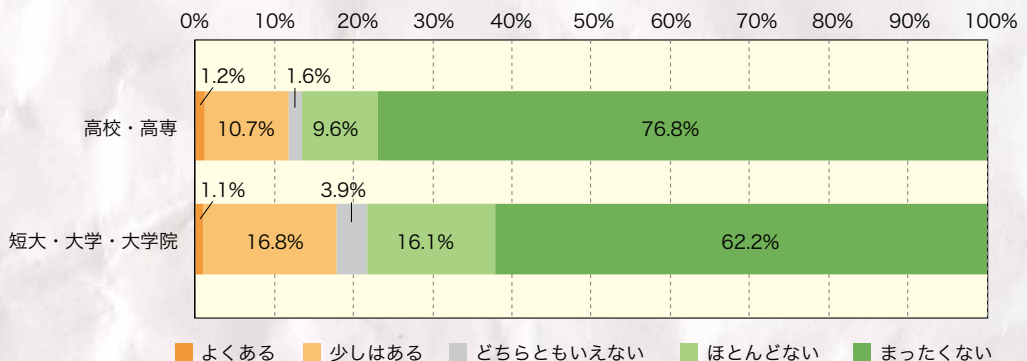
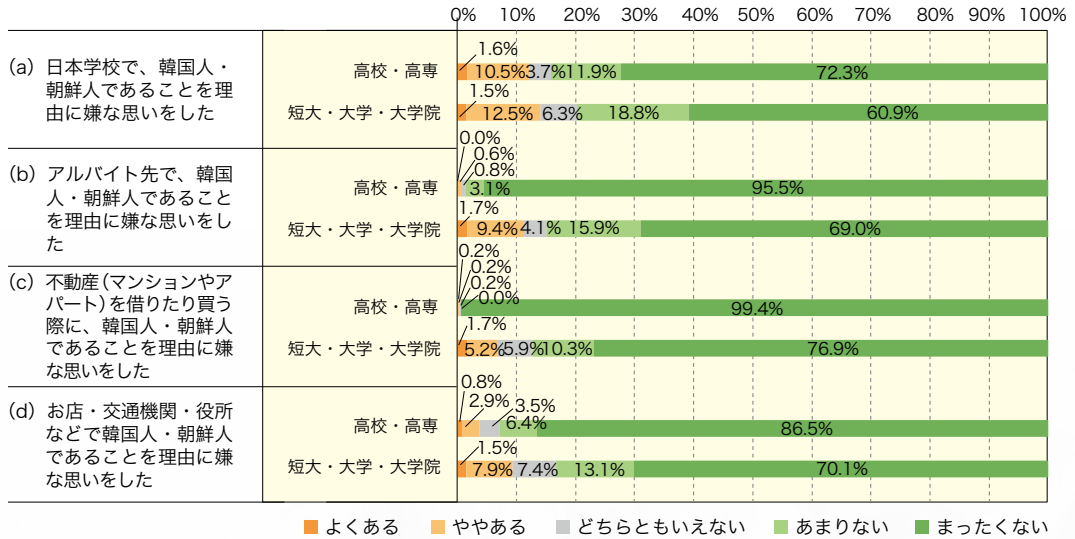


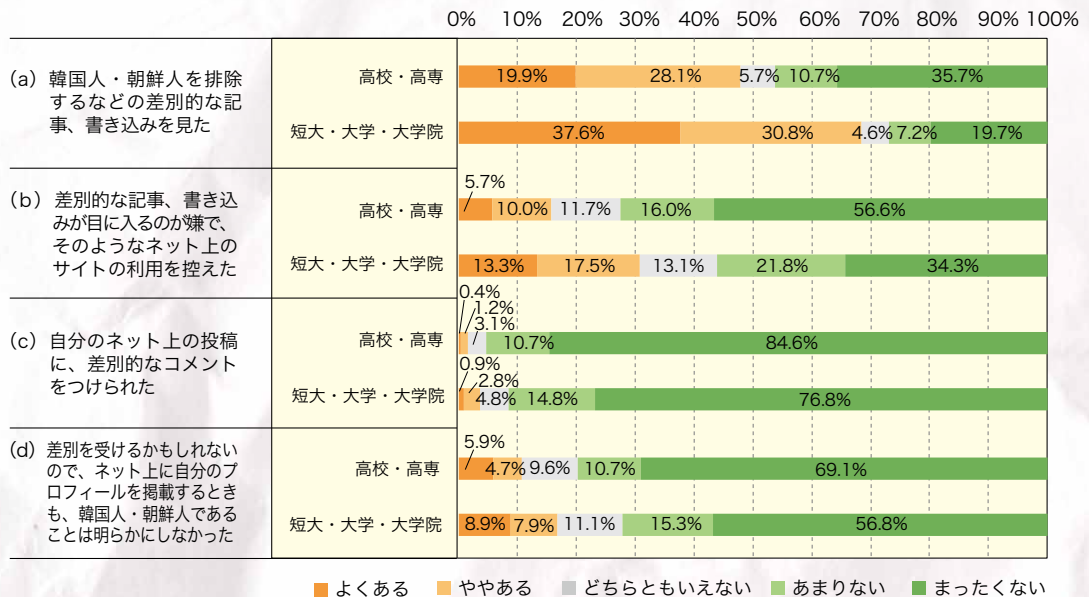
図 3-2 教育課程×嫌な思い (Q9-1)



こうした傾向は、ネット上での嫌な体験についても同様である。たとえば「差別的な書き込みを見た」という問いに「よくある」「ややある」と答えたのは、高校生などが48.0%なのに対して、大学生などでは68.4%に上っている。また「差別的コメントをつけられた」についても、高校生などが1.6%、大学生などが

3.7%となっている。それに伴って「サイトの利用を控えた」も高校生などが15.7%であるのに対して大学生などは30.8%、プロフィールで属性を明らかにしなかった人も高校生などが10.6%に対して大学生などが16.8%と、いずれも大学生などのほうが高い数値となった(図3-3)。

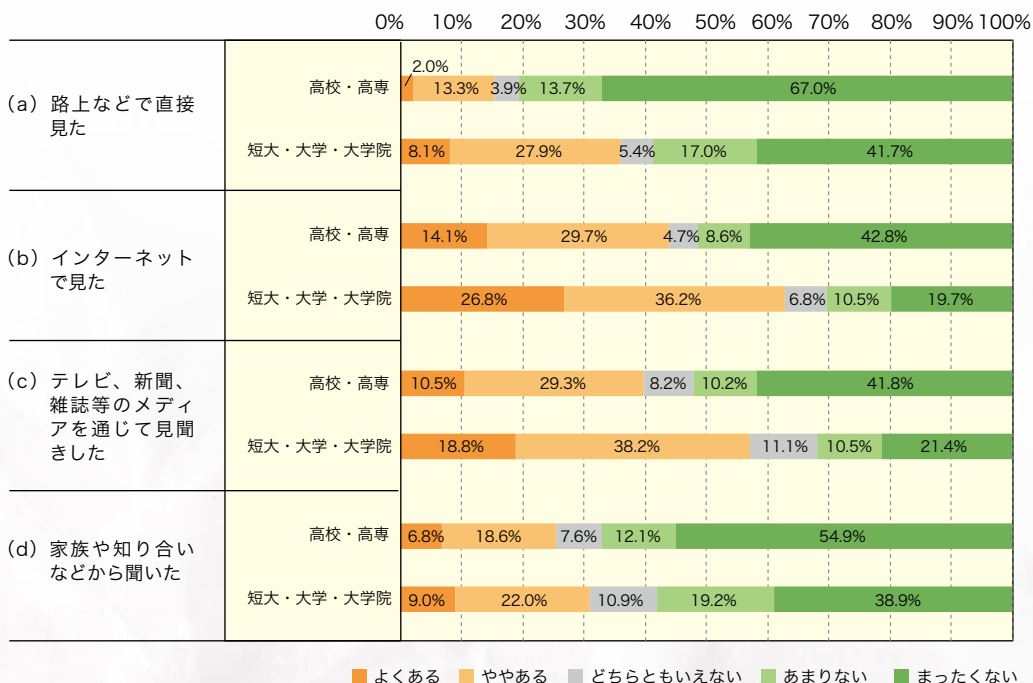
図 3-3 教育課程×ネット上での嫌な体験 (Q10-1)



同様の傾向は、差別デモ・街宣の見聞きについても確認できる。「路上などで直接見た」に「よくある」「ややある」と答えた人の割合は、高校生などが15.3%であるのに対し、大学生などは36.0%に上る。また「インターネットで見た」は高校生などが43.8%であるのに

対して大学生などは63.0%、「メディアを通じて見聞きした」も高校生などが39.8%であるのに対して大学生などは57.0%と、いずれも大学生などのほうが認知の割合が高いという結果となった(図3-4)。

図3-4 教育課程×差別デモ・街宣の見聞き(Q11-1)



## 2-4 出生地による違い

出生地による違いは大きく「日本」と「韓国等」に分かれるが、これは基本的には「オールドカマー」と「ニューカマー」の違いに対応する。

まず「言葉による嫌がらせ体験」については、「よくある」「少しはある」と答えた人の割合は日本出身者より韓国等の出身者のほうが若干多いものの(日本14.7%、韓国等16.3%)、そこまではっきりした違いではない(図4-1)。ま

た「嫌な思い(差別的処遇)」についても、学校やアルバイト先については、やはりはっきりした違いはない。しかし「不動産」について日本出身者2.0%に対して韓国等出身者9.6%となっており、ニューカマーについてのほうがより問題が大きいことが読み取れる。また「お店・交通機関・役所など」についても日本5.9%、韓国等9.2%と、比較的大きな違いが見られる(図4-2)。



図 4-1 出生地×言葉による嫌がらせ体験 (Q8-1)

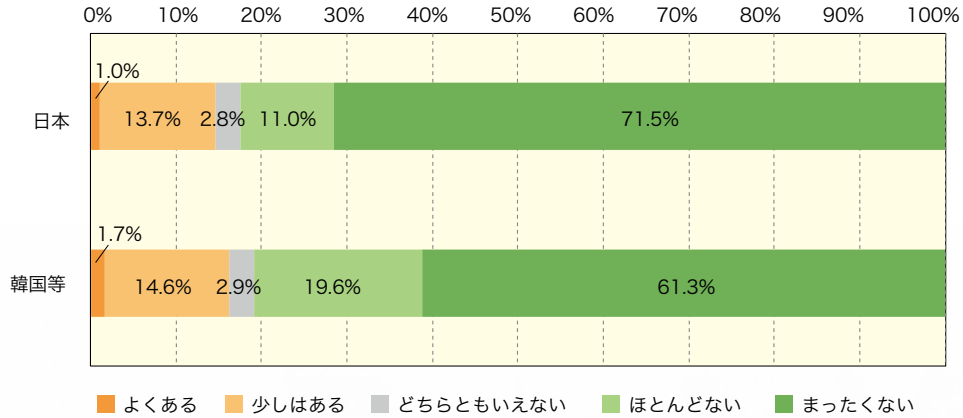
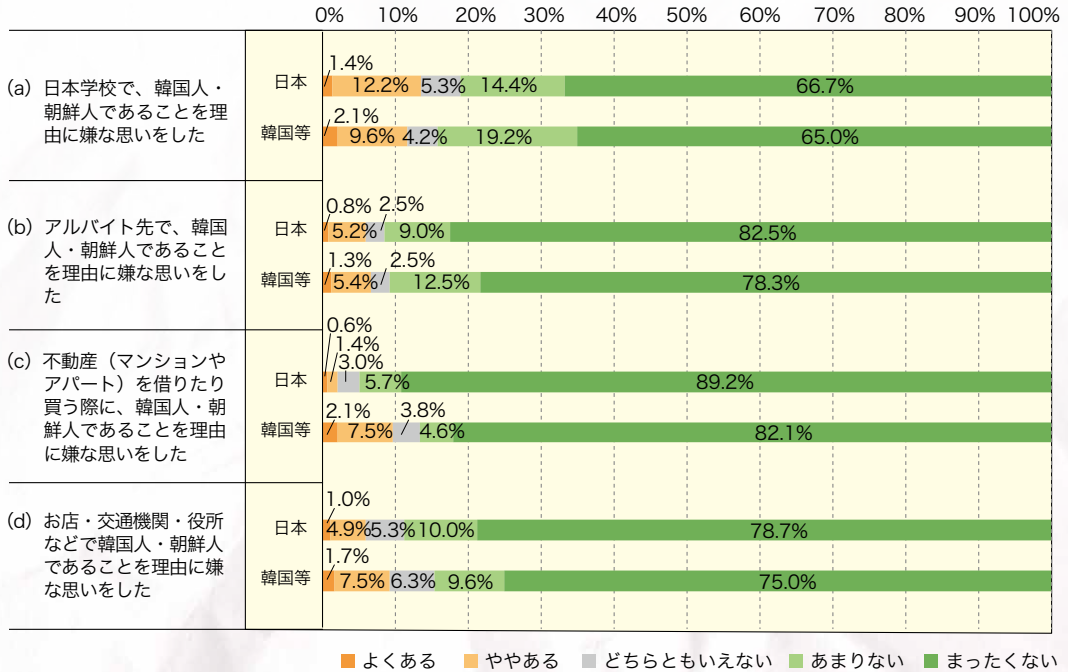


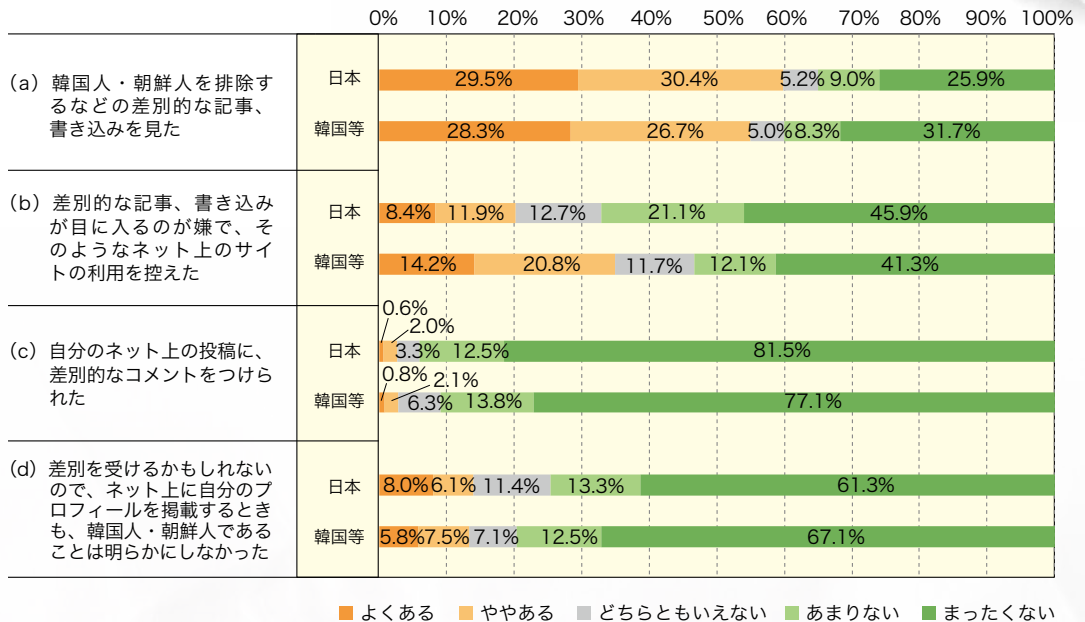
図 4-2 出生地×嫌な思い (Q9-1)



またネット上での嫌な体験についてもそままで大きな違いが見られないものが多いが、差別的な記事によって「サイトの利用を控えた」

と答えた人の割合については、日本出身者 20.3% に対して韓国等出身者 35.0% と、大きな違いが生じている (図 4-3)。

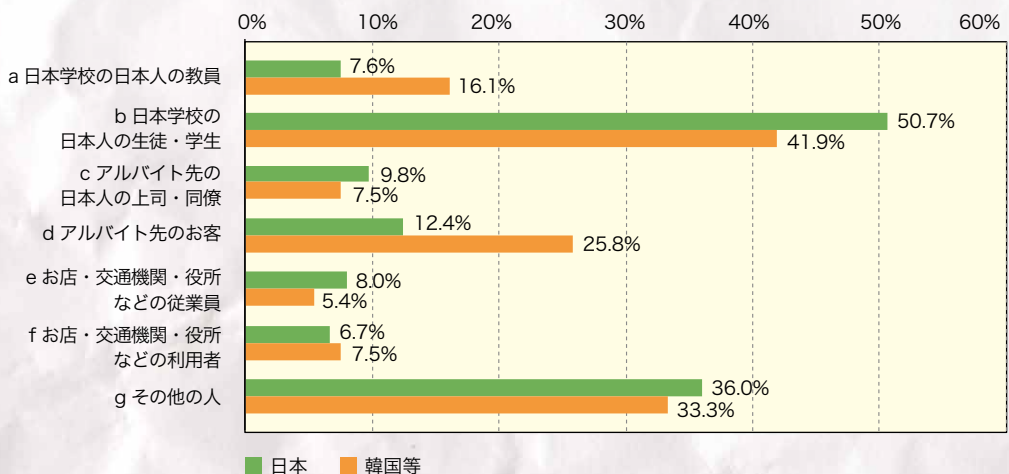
図 4-3 出生地×ネット上での嫌な体験 (Q10-1)



なお出生地の違いは、言葉による嫌がらせを誰にされたか、という問いに対する答えにおいても顕著に現れている。たとえば「日本学校の日本人の教員」と答えた割合は、日本出身者7.6%に対して韓国等出身者は16.1%である。「日本学校の日本人の生徒・学生」と答えた割合は日本出身者50.7%に対して韓国等出身者は41.9%なので、(後者のほうがどちらについ

ても割合自体は高いことは確認すべきである(一方で)ニューカマーに対する嫌がらせがより「大人」によるものである点については注意する必要がある。「アルバイト先のお客」と答えた割合が日本出身者12.4%に対して韓国等出身者は25.8%であることと併せて、ニューカマーに対する差別の特性が浮かび上がるデータとなっていると言えるだろう(図 4-4)。

図 4-4 出生地×言葉による嫌がらせの相手 (Q8-2)



## 2-5 名前による違い

今回の調査では名前について「まったく通名」「通名の方が民族名より多い」「同じくらいに使いわけている」「民族名の方が通名より多い」「まったく民族名」の5段階で尋ねたが、ここではこのうち真ん中3つ（「通名の方が民族名より多い」「同じくらいに使いわけている」「民族名の方が通名より多い」）を「使い分けしている」とまとめた上で分析を行った。

その上でまず「言葉による嫌がらせ体験」についてだが、「まったく通名」の7.3%、「使い分けしている」の15.0%、「まったく民族名」の17.9%が、「よくある」「少しはある」と答えた。「まったく通名」が他の2つに比べて少ないのはもちろんだが、逆に言えば「まったく通名」でない限り割合がほぼ変わらない、ということも確認しておくべきだろう（図 5-1）。

また「嫌な思い（差別的処遇）」についてだ

が、「学校」については「まったく通名」10.1%、「使い分けしている」15.8%、「まったく民族名」12.2%と、とくに傾向は確認できない。これに対して「アルバイト先」では、「まったく通名」が2.8%、「使い分けしている」が4.4%であるのに対し、「まったく民族名」が8.5%と、はっきりした違いが生じている。こうした傾向は、「不動産」（「まったく通名」1.1%、「使い分けしている」1.7%、「まったく民族名」6.3%）でも同様である。

一方で、「お店・交通機関・役所など」については、「まったく通名」が1.7%なのに対し、「使い分けしている」が7.4%、「まったく民族名」が7.9%と、方向性は同じながら「使い分けしている」が「まったく民族名」寄りになる（「言葉による嫌がらせ体験」と同じ）違いが見られる（図 5-2）。

図 5-1 名前×言葉による嫌がらせ体験 (Q8-1)

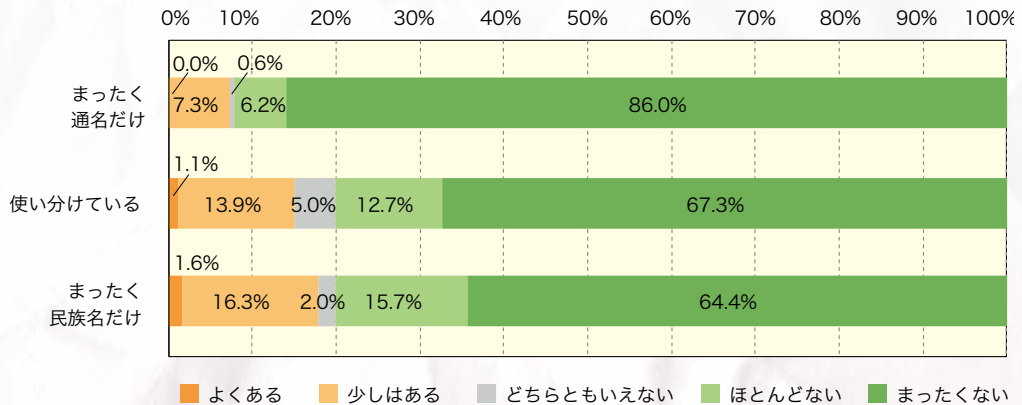
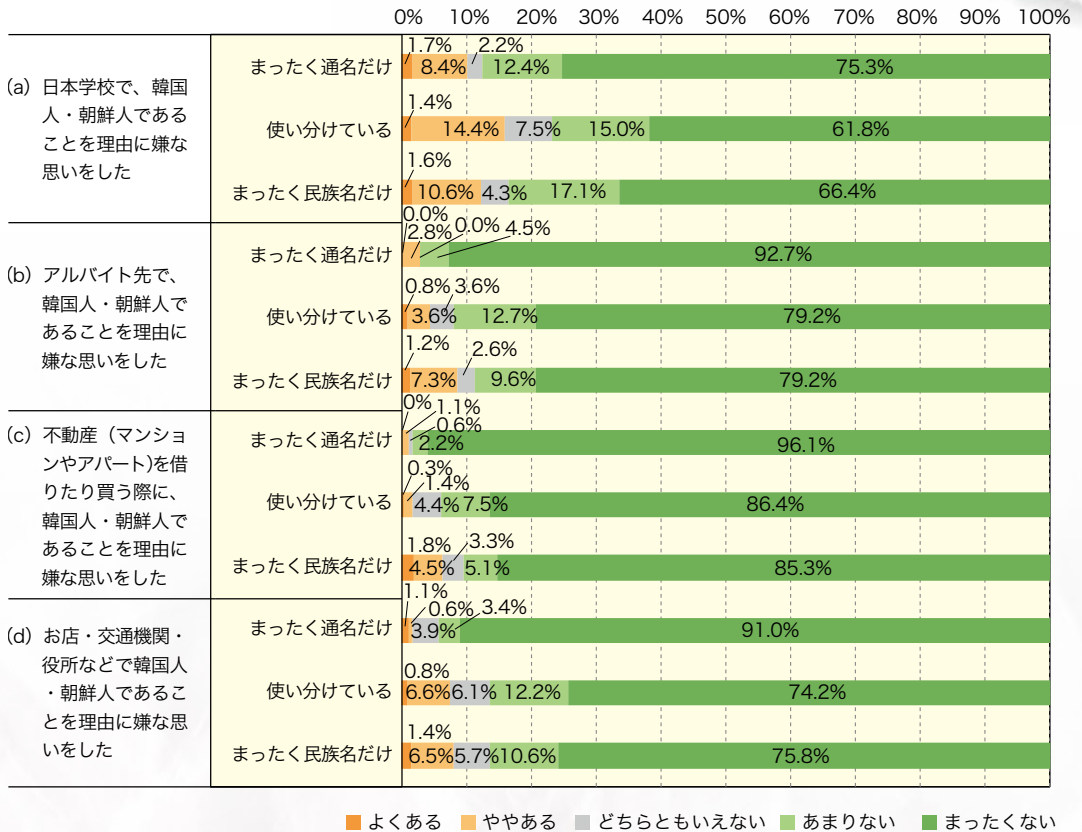
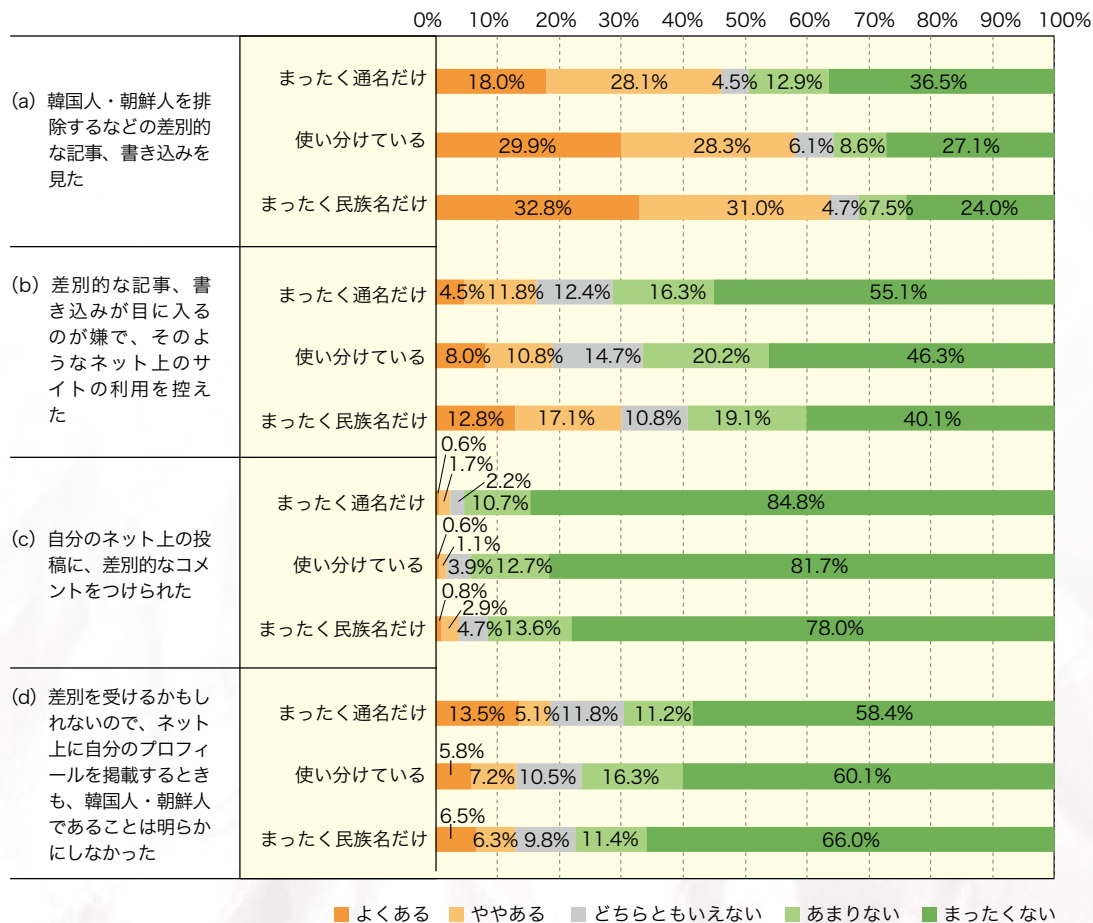


図 5-2 名前×嫌な思い (Q9-1)



ネットについては、「ネットの利用を控えた」が「まったく通名」16.3%、「使い分けしている」18.8%に対し、「まったく民族名」29.9%と、「アルバイト先」や「不動産」での「嫌な思い（差別的処遇）」と同様の傾向を示している(図5-3)。

図 5-3 名前×ネット上での嫌な体験 (Q10-1)

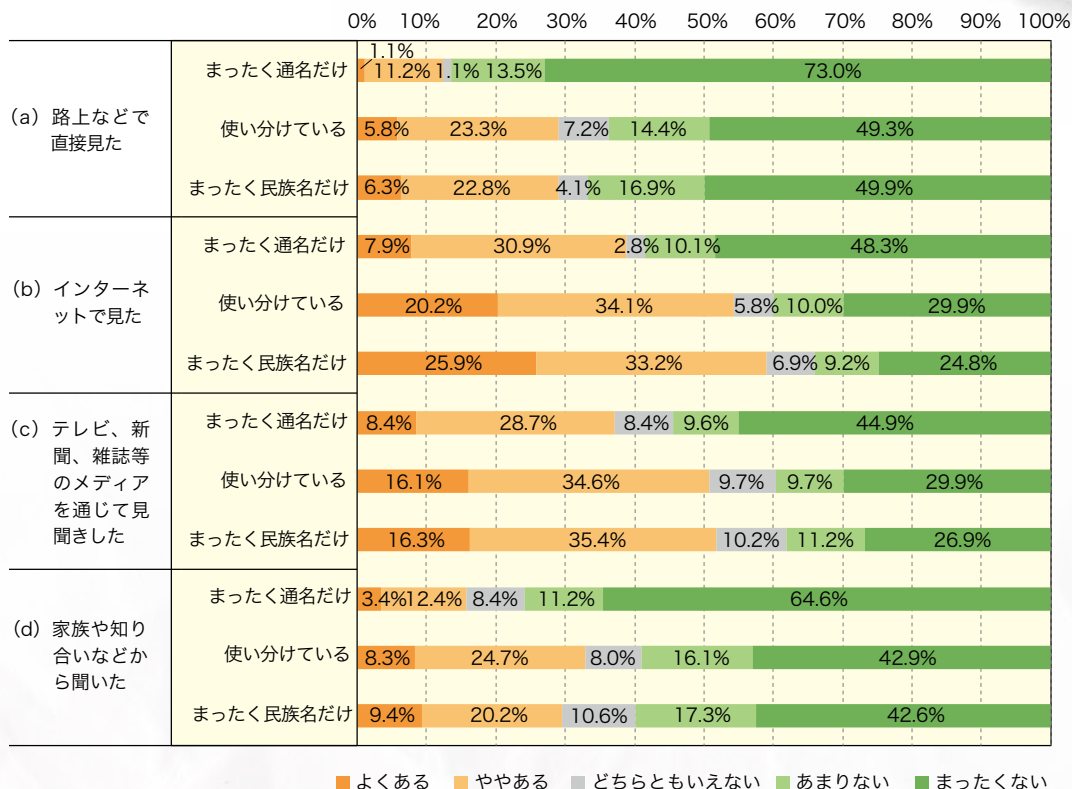


なお関連して興味深いのは、差別デモ・街宣についての見聞きについての結果だ。通名を使うか民族名を使うかということは、本人が嫌がらせを受けるかどうかということには影響しても、差別デモや街宣を見聞きするかどうかには影響がなさそうである。しかし実際には、たとえば「路上などで直接見た」に「よくある」「ややある」と答えた人の割合は、「まったく通名」が12.3%であるのに対して、「使い分けしている」は29.1%、「まったく民族名」も29.1%

と、後者2つが際立って高いという結果になっている。また「インターネットで見た」(「まったく通名」37.8%、「使い分けしている」54.3%、「まったく民族名」59.1%)、「メディアを通じて見聞きした」(「まったく通名」37.1%、「使い分けしている」50.7%、「まったく民族名」51.7%)、「家族や知り合いなどから聞いた」(「まったく通名」15.8%、「使い分けしている」33.0%、「まったく民族名」29.6%)と、基本的に同じ傾向を示している(図5-4)。



図 5-4 名前×差別デモ・街宣の見聞き (Q11-1)



## 3 嫌がらせ体験の受け止め方

### 3-1 全体の状況

それでは、回答者は嫌がらせ体験をどのように受け止めているのだろうか(図 6)。回答者のうち嫌がらせ体験を有する、「言葉」N=318、「差別的処遇」N=406、「ネット」N=761、「デモ街宣」N=780のみを集計対象とした。利用した質問と選択肢は「言葉」Q8 ⑦、「差別的処遇」Q9 ②、「ネット」Q10 ②、「デモ街宣」Q11 ②である。

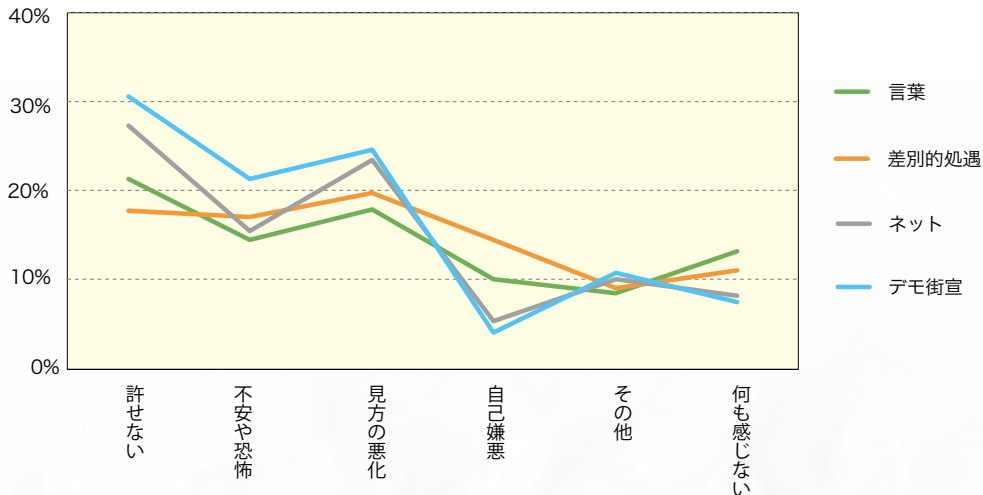
回答の分布はどのような種類の嫌がらせ体験でも類似している。最も割合が多かったのは「a 不快に感じた」であり、「言葉」が73.0%、「差別的処遇」が64.0%、「ネット」が75.7%、「デモ街宣」が74.9%である。この項目は他と比べて値が大きいため図からは除外している。

個別にみると、嫌がらせ体験の種類ごとに特徴を指摘できる。「ネット」「デモ街宣」は「言葉」「差別的処遇」と比べて、「b 許せないと感じた(許せない)」「d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった(見方の変化)」の割合が相対的に多く、「e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った(自己嫌悪)」が少ない。「ネット」「デモ街宣」は回答者らの日本社会に対する批判意識を強める一方で、「言葉」「差別的処遇」は回答者らに「自己嫌悪」を強める傾向にあると言える。

また、「c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた(不安や恐怖)」の割合が最も多いのが「デモ街宣」の21.3%である。「デモ街宣」

は他の種類の差別と比べて、日本での今後の暮らしに対する最大の脅威と回答者に捉えられている。

図6 嫌がらせ体験の受け止め方



### 3-2 属性による違い

嫌がらせ体験の受け止め方も、属性によって異なった結果を示している。まず性別についてみると、「不快に感じた」「許せないと感じた」「日本で生活することに不安や恐怖を感じた」「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」について、いずれも女性のほうが高い数値を示している。例外は「韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った」で、これだけ男性のほうが若干高いが、「何も感じなかった」が男性 22.0% に対して女性が 7.0% だということも併せると、おおむね女性のほうが嫌がらせをより深刻にとらえていると言えるだろう(図 7-1)。なおこうした傾向は、嫌な思い、ネットでの体験、差別デモ・街宣の見聞きのいずれについても、ほぼ変わらない。

また教育課程(高校か大学か)の違いについて見ると、両者がほぼ拮抗している「不快に感じた」を除き、「許せないと感じた」「日本で生活することに不安や恐怖を感じた」「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」については、いずれも高校生などよりも大学生などのほうが高い数値を示している。ただしやや注意が必要だと思われるのは、「韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った」が高校生など 13.3% に対して大学生など 8.3% と、ここだけ逆転していることである(ここからうかがえるのは相対的に年齢の若い高校生が嫌がらせを自らのアイデンティティに関わる問題としてとらえやすいということだろう)(図 7-2)。

図 7-1 性別×言葉による嫌がらせの受け止め方 (Q8-7)

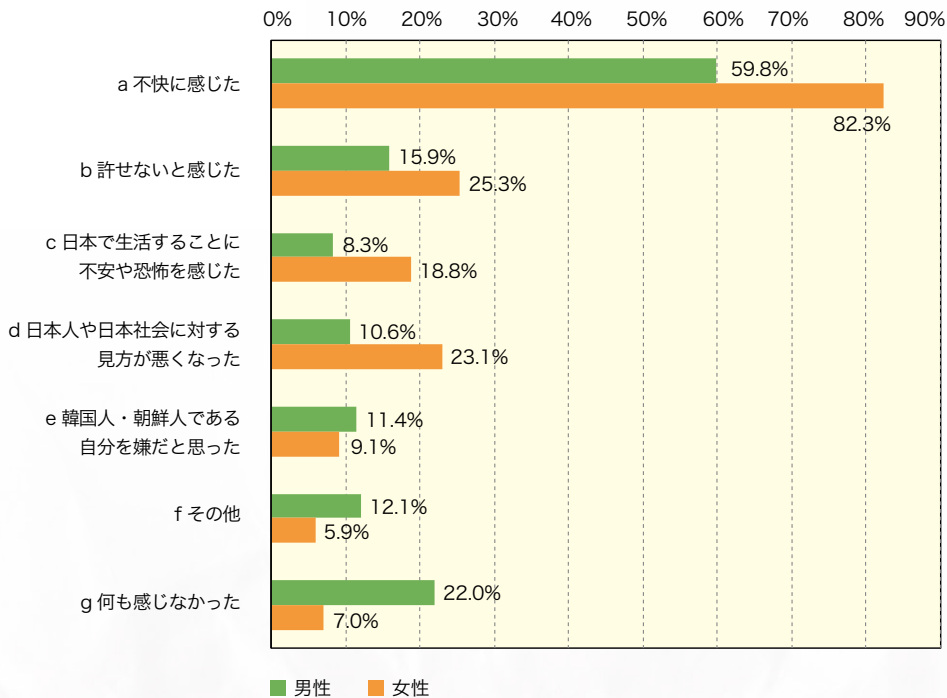
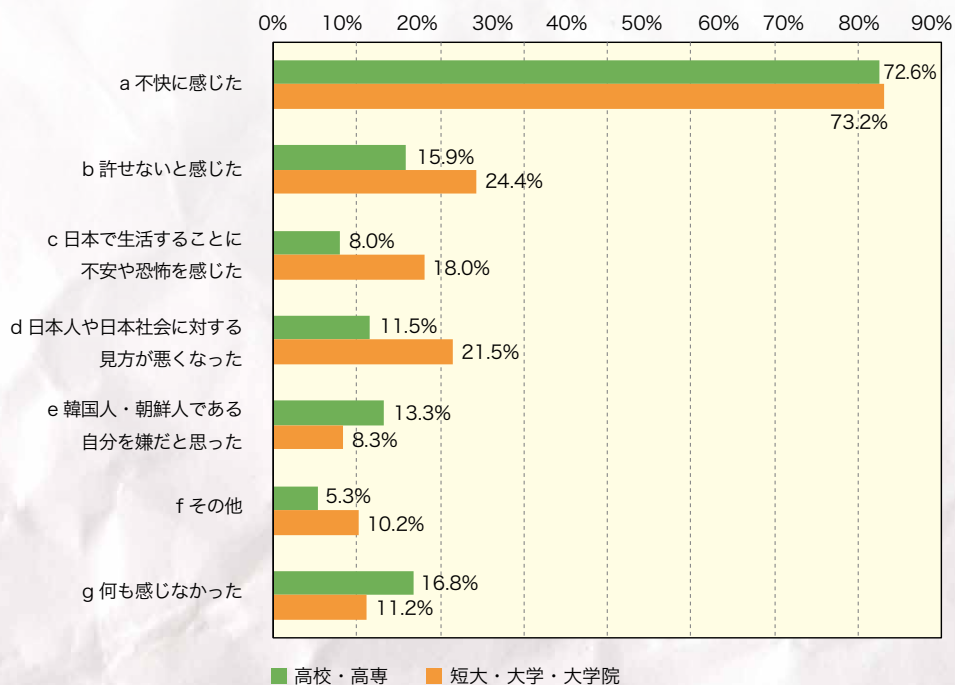


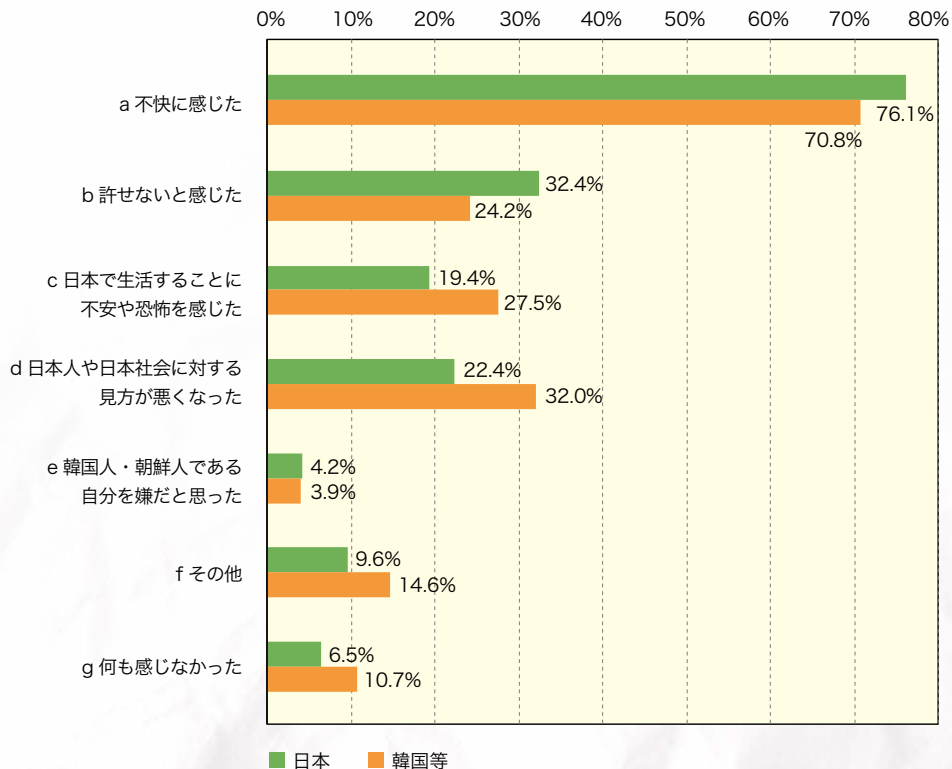
図 7-2 教育課程×言葉による嫌がらせの受け止め方 (Q8-7)



出生地による捉え方の違いについては、性別や教育課程のように一貫した傾向は見いだせなかった。ただしとくに差別デモ・街宣の見聞きについては、「不快に感じた」「許せないと感じた」については日本出身者がやや多めであるのに対して、「日本で生活することに不安や

恐怖を感じた」「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」では韓国等出身者のほうが高い数値を示しており、ニューカマーのほうが嫌がらせを「日本社会」の問題としてとらえる傾向がうかがえる(図 7-3)。

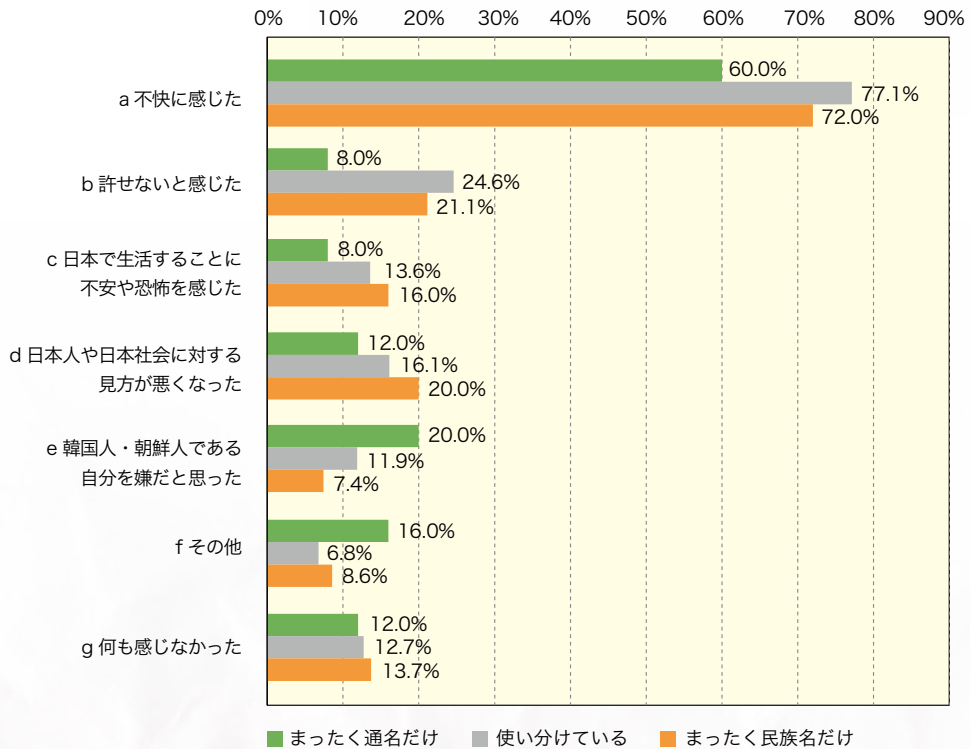
図 7-3 出生地×差別デモ・街宣の受け止め方 (Q11-2)



最後に名前による違いについてだが、たとえば言葉による嫌がらせ体験について「不快に感じた」のは、「まったく通名」が60.0%、「使い分けしている」が77.1%、「まったく民族名」が72.0%で、後者2つが高いという傾向となっている。こうした傾向は「許せないと感じた」「日本で生活することに不安や恐怖を感じた」「日本人や日本社会に対する見方が悪くなった」についても程度の違いはあれ共通している。しかしここでも「韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った」だけは違う動きを示しており、

「まったく通名」が20.0%、「使い分けしている」が11.9%、「まったく民族名」が7.4%という結果となった(図 7-4)。前述の性別や教育課程の違いと同様、こうした傾向は嫌な思い、ネットでの体験、差別デモ・街宣の見聞きについても基本的に共通している(なお厳密に言えば、「韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った」について「まったく通名」が高いという逆転した動きを見せるのは「嫌な思い(差別的処遇)」のみで、ネットでの体験、差別デモ・街宣の見聞きについてはこの限りではない)。

図 7-4 名前×言葉による嫌がらせの受け止め方 (Q8-7)



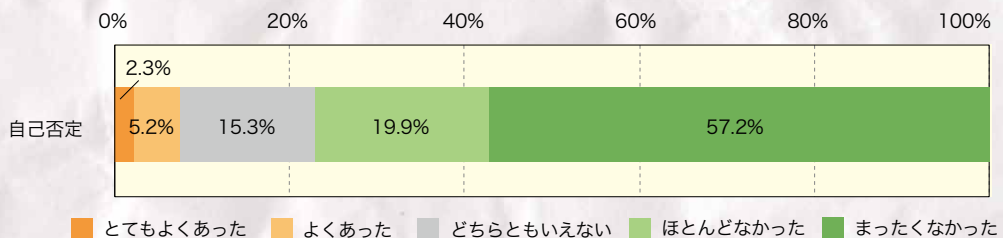
## 4 民族としての自己の否定と嫌がらせ体験

### 4-1 全体の状況

民族としての自己の否定についての結果を述べる。調査では、この3年間の間に民族としての自己を否定的に捉えた経験の頻度について聞いている(図8)。この質問文は差別が原因であると限定していない。差別体験は民族としての自己の否定を強めると言われるが、当事

者において差別が原因と特定されていない場合があるためである。これによると「まったくなかった」が57.2%と最も高い。だが、言い換えると残りの4割前後の回答者が、おおむね3年間に民族としての自己を否定的に捉えたことがあるということになる。

図 8 民族としての自己の否定の経験

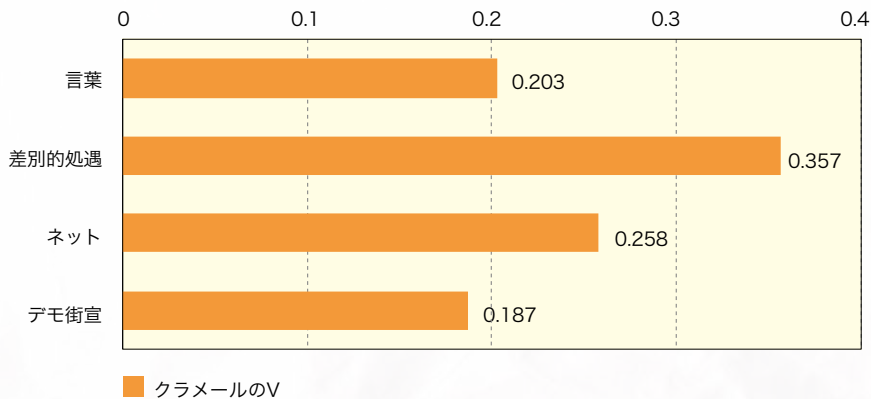




なおやや発展的な分析になるが、嫌がらせ体験の種類別に、民族としての自己の否定に及ぼす影響の大きさについてまとめた(図9)。この図で示した数値は「クラメールのV」であり、値が大きいものほど民族としての自己の否定に与える影響力が大きいことを示している。

これによると、民族としての自己の否定に最も大きな影響を及ぼしているのは「差別的処遇」の0.357である。「差別的処遇」は他の嫌がらせ体験と比較して、民族としての自己を否定する大きな契機となっていると言える。

図9 民族としての自己の否定に対する嫌がらせ体験の影響

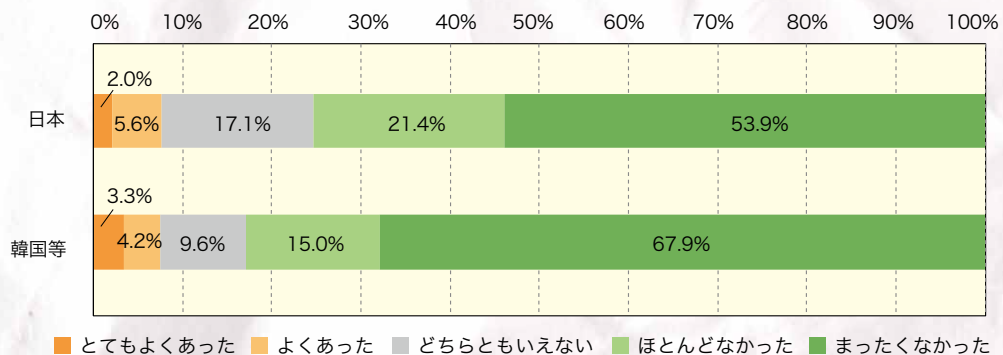


## 4-2 属性による違い

民族としての自己の否定は、これまで見てきた属性のうち、性別と教育課程についてはほとんど違いが見られない。これに対して出生地については、自分を嫌だと思ったことが「とてもよくあった」「よくあった」と答えた人の割合についてはほとんど変わらないが、「まったくなかった」と答えた人は日本出身者が53.9%で

あるのに対して韓国等出身者は67.9%となっており、オールドカマーのほうが民族としての自己を否定しやすいことがうかがえる(図10-1)。嫌がらせ体験自体についてはオールドカマーとニューカマーで同程度かニューカマーのほうが多めであったことを考え合わせると、これは注意が必要な結果であると思われる。

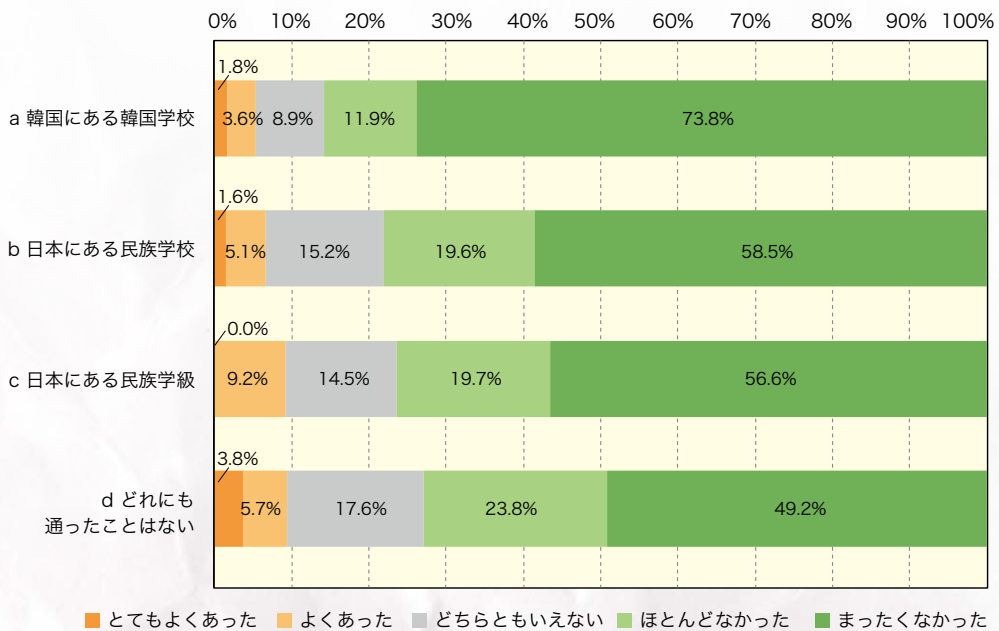
図10-1 出生地×自分を嫌だと思ったこと(Q13)



また嫌がらせ体験自体の分析には用いなかった学校経験にかかわる質問だが、今回の調査ではこれについて「韓国にある韓国学校」「日本にある民族学校」「日本にある民族学級」「どれにも通ったことはない」の4つに分けて尋ねている。自分を嫌だと思ったことがどのくらいあったかという質問に対する答えがこれら4つによってどう違ったかを見たところ、「とてもよくあった」「よくあった」については出生地同様ほとんど違いがないが、「まったくなかった」

については一定の傾向が見られた。すなわち、「韓国にある韓国学校」がもっとも高く(73.8%)、続いて「日本にある民族学校」(58.5%)、「日本にある民族学級」(56.6%)、最後に「どれにも通ったことはない」(49.2%)という結果となった(図 10-2)。先に見た出生地ほど明確な違いではないが、オールドカマー内部でも学校経験によって、民族としての自己の否定経験に違いが生じていることをうかがわせる。

図 10-2 学校×自分を嫌だと思ったこと (Q13)

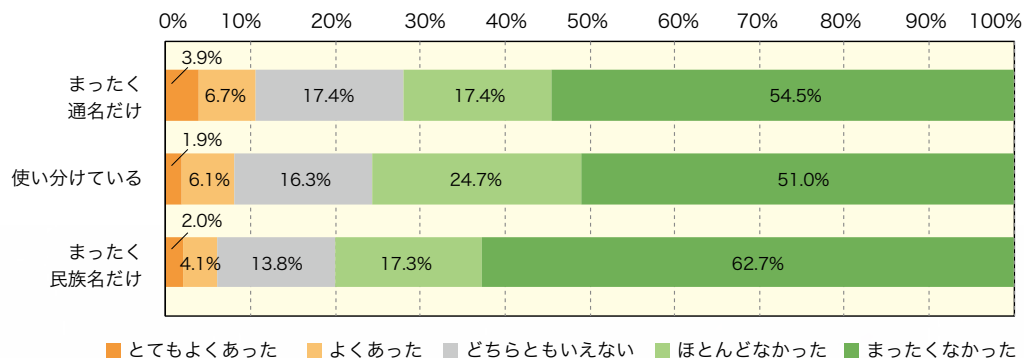


最後に、名前の使用が民族としての自己の否定にどうかかわるかを見ておこう(図 10-3)。この図が示す結果は、非常に複雑である。

自分を嫌だと思ったことが「とてもよくある」「よくある」と答えた人の割合は、「まったく通名」で10.6%、「使い分けしている」で8.0%、「まったく民族名」で6.1%と、微妙ではあるが民族名を使う人ほど自己否定の経験が少ないという傾向が出ている。しかしその一方で、自分を嫌だと思ったことが「まったくなかった」

人の割合について見ると、「まったく通名」が54.5%、「使い分けしている」が51.0%、「まったく民族名」が62.7%となっており、「まったく民族名」の人が自己否定の経験が少ないということはあらためて確認されるものの、「まったく通名」だと自己否定の経験が多くなる、と単純に結論づけることもできない。この点については、今回の調査の分析を超えて、さらなる検討を必要とするだろう。

図10-3 名前×自分を嫌だと思ったこと (Q13)



## 5 まとめ

### 5-1 嫌がらせ体験の実態

#### 5-1-1 「言葉による嫌がらせ体験」3割、「嫌な思い」4割、ネットやデモは7割以上

嫌がらせ体験の実態については、およそ3割が「言葉による嫌がらせ体験」があったと答え、およそ4割が「嫌な思い(差別的処遇)」を経験したことがあると答えている。また、「ネット上での嫌な体験」をした、「ヘイトデモ・街宣の見聞き」があったと答えた人は、いずれも7割以上にのぼった。

#### 5-1-2 基本的な傾向は男性<女性、高校生<大学生、日本出身<韓国出身、通名<民族名

嫌がらせ体験をしたことがある人の割合は、男性よりも女性が、高校生などよりも大学生などが、日本出身者よりも韓国等出身者が、通名を使う人よりも民族名を使う人が、基本的に高いという傾向が見られた。

もう少し細かく見ると、まず「言葉による嫌がらせ体験」については、男性よりも女性が、高校生などよりも大学生などが、通名を使う人よりも民族名を使う人が、それぞれより多く経験している。

また「嫌な思い(差別的処遇)」についてだが、これは「学校」においては男性よりも女性

が、「アルバイト先」においては男性よりも女性、高校生などよりも大学生など、通名を使う人よりも民族名を使う人が、「不動産」では高校生などよりも大学生など、日本出身者よりも韓国等出身者、通名を使う人よりも民族名を使う人が、「お店・交通機関・役所」においては男性よりも女性、高校生などよりも大学生など、日本出身者よりも韓国等出身者、通名を使う人よりも民族名を使う人が、それぞれ多く経験していた。

さらに「ネット上での嫌な体験」については、高校生などより大学生などが多いという結果が見られたが、他の属性についてはそこまで大きな違いはなかった。ただし、そうしたことを避けるために「ネットの利用を控えた」人の割合は、日本出身者よりも韓国等出身者が、通名を使う人よりも民族名を使う人が、それぞれ高いという特徴が見られた。

最後に「ヘイトデモ・街宣の見聞き」についても、やはり高校生などより大学生などが多いという結果が見られたほか、通名よりも民族名を使う人にそうした傾向がより顕著に見られることも確認された。

### 5-1-3 女性やニューカマーは「大人」からの嫌がらせを受けやすい

なお「言葉による嫌がらせ」をされた場合のより詳細な状況についてだが、このうち「嫌がらせの相手」は、女性は男性よりも「日本学校の日本人の教員」「アルバイト先のお客」「お店・交通機関・役所」から受けたと答えた人が多く、男性のほうが多かったのは「日本学校の日本人の生徒・学生」だけだった。また「日本学校の日本人の教員」と「アルバイト先のお

客」については、日本出身者よりも韓国等出身者（ニューカマー）のほうが嫌がらせを受けた割合が高いという結果も確認されている（「日本学校の日本人の生徒・学生」については、日本出身者>韓国等出身者）。

また「嫌がらせを止める人」は女性よりも男性のほうがそういう人がいたと答えた割合が高かった一方で、「嫌がらせの相談相手」については、逆に男性よりも女性のほうがそういう人がいたと答えた割合が高かった。

## 5-2 嫌がらせ体験の受け止め方

### 5-2-1 直接的な被害による自己像の悪化、ネットやデモ街宣による社会観の悪化

「言葉による嫌がらせ体験」「嫌な思い（差別的処遇）」「ネット上での嫌な体験」「ヘイトデモ・街宣の見聞き」いずれについても「不快」がもっとも割合が高かったが、「言葉による嫌がらせ体験」「嫌な思い（差別的処遇）」については「自己嫌悪」が、「ネット上での嫌な体験」「ヘイトデモ・街宣の見聞き」については「許せない」「（日本に対する）見方の変化」が、それぞれ多く見られる結果となった。また「ヘイトデモ・街宣の見聞き」について「不安や恐怖」という回答が多かったことも重要な特徴で

ある。

### 5-2-2 基本は男性<女性、高校生<大学生、通名<民族名、ただし「自己嫌悪」だけ逆

「不快」「許せない」「不安や恐怖」「（日本に対する）見方の変化」については、男性よりも女性が、高校生などよりも大学生などが、通名よりも民族名を使う人が、感じた人が多いという結果となった。

これに対して「自己嫌悪」だけは逆の傾向を示しており、女性よりも男性が、大学生などよりも高校生などが、民族名よりも通名を使う人が、感じた人がより多かった。

## 5-3 民族としての自己の否定と嫌がらせ体験

### 5-3-1 民族としての自己の否定に大きな影響を与える差別的処遇

民族としての自己の否定については、「まったくなかった」と答えた6割弱を除く4割程度が何らかの形で経験しているが、「言葉による嫌がらせ体験」「嫌な思い（差別的処遇）」「ネット上での嫌な体験」「ヘイトデモ・街宣の見聞き」のうち、こうした経験にもっとも大きな影響を及ぼしていると思われるのは「嫌な思い（差別的処遇）」だった。

### 5-3-2 民族としての自己の否定は、出身地、出身学校、名前の使用に影響される

民族としての自己の否定は性別や教育課程にはとくに影響を受けないが、韓国等出身者より日本出身者が、韓国学校や民族学校より日本学校出身者が、民族名よりも通名を使う人が、より経験しやすいという結果となった（ただし民族名と通名についてはやや微妙で、通名を使用することが自己否定を減らすと解釈できる部分もある）。



## 補足資料 単純集計一覧

Q1 あなたの性別、年齢を教えてください。(1つだけ○、カッコ内に数字を記入)

	度数	相対度数
男性	488	47.4%
女性	542	52.6%
合計	1030	100.0%

	度数	相対度数
15 歳	21	2.0%
16 歳	146	14.2%
17 歳	167	16.2%
18 歳	165	16.0%
19 歳	68	6.6%
20 歳	97	9.4%
21 歳	108	10.5%
22 歳	98	9.5%
23 歳	55	5.3%
24 歳	18	1.7%
25 歳	20	1.9%
26 歳	16	1.6%
27 歳	13	1.3%
28 歳	12	1.2%
29 歳	4	0.4%
30 歳	10	1.0%
31 歳	1	0.1%
32 歳	3	0.3%
33 歳	1	0.1%
34 歳	1	0.1%
35 歳	1	0.1%
36 歳	1	0.1%
37 歳	0	0.0%
38 歳	1	0.1%
39 歳	3	0.3%
合計	1030	100.0%



**Q2** あなたが現在在学中の課程と学年について教えてください。  
(1つだけ○、カッコ内に数字を記入)

	度数	相対度数
高校	472	45.8%
高等専門学校	16	1.6%
短期大学	1	0.1%
大学	461	44.8%
大学院	80	7.8%
合計	1030	100.0%

**Q3** あなたの「国籍」を教えてください。(1つだけ○)

	度数	相対度数
韓国	985	95.6%
朝鮮	45	4.4%
合計	1030	100.0%

**Q4** あなたが生まれた「国」または「地域」を教えてください。(1つだけ○)

	度数	相対度数
日本	790	76.7%
韓国	236	22.9%
その他	4	0.4%
合計	1030	100.0%

**Q5** あなたはこれまでに下記の学校、学級に通ったことがありますか。(いくつでも○)

	度数	相対度数
a 韓国にある韓国学校	168	16.3%
b 日本にある民族学校	448	43.5%
c 日本にある民族学級	76	7.4%
d どれにも通ったことはない	370	35.9%
全体	1030	100.0%

**Q6** おおむねこの3年の間に、あなたは日本でアルバイトをしたことがありますか。(1つだけ○)

	度数	相対度数
ある	665	64.6%
ない	365	35.4%
合計	1030	100.0%

**Q7** あなたは現在、民族名と通名(日本式の名前)をどのように使っていますか。(1つだけ○)

	度数	相対度数
まったく通名	178	17.3%
通名の方が民族名より多い	117	11.4%
同じくらいに使いわけている	77	7.5%
民族名の方が通名より多い	167	16.2%
まったく民族名だけ	491	47.7%
合計	1030	100.0%

**Q8** ①おおむねこの3年の間に、あなたは日本で暮らしていて、韓国人・朝鮮人であることを理由に、他の人から言葉による嫌がらせを受けたことがありますか。(1つだけ○)

	度数	相対度数
よくある	12	1.2%
少しはある	143	13.9%
どちらともいえない	29	2.8%
ほとんどない	134	13.0%
まったくない	712	69.1%
合計	1030	100.0%

**Q8** ②それは誰から言われましたか。(いくつでも○)

▼全体

	度数	相対度数
a 日本学校の日本人の教員	32	3.1%
b 日本学校の日本人の生徒・学生	153	14.9%
c アルバイト先の日本人の上司・同僚	29	2.8%
d アルバイト先のお客	52	5.0%
e お店・交通機関・役所などの従業員	23	2.2%
f お店・交通機関・役所などの利用者	22	2.1%
g その他の人	112	10.9%
h 言葉による嫌がらせを言われたことはない	712	69.1%
合計	1030	100.0%

▼嫌がらせ体験ありのみ

	度数	相対度数
a 日本学校の日本人の教員	32	10.1%
b 日本学校の日本人の生徒・学生	153	48.1%
c アルバイト先の日本人の上司・同僚	29	9.1%
d アルバイト先のお客	52	16.4%
e お店・交通機関・役所などの従業員	23	7.2%
f お店・交通機関・役所などの利用者	22	6.9%
g その他の人	112	35.2%
h 言葉による嫌がらせを言われたことはない	0	0.0%
合計	318	100.0%

**Q8** ③誰にどのような内容を言われたのか、よろしければ具体的にご記入ください。(自由回答)

**Q8** ④あなたの周囲には、言葉による嫌がらせに対して注意などをして、止めてくれる人はいましたか。それはどのような人でしたか。(いくつでも○)

▼ 全体

	度数	相対度数
a 日本学校の韓国人・朝鮮人の教員	13	1.3%
b 日本学校の日本人の教員	56	5.4%
c 日本学校の韓国人・朝鮮人の生徒・学生	12	1.2%
d 日本学校の日本人の生徒・学生	69	6.7%
e アルバイト先の韓国人・朝鮮人の上司・同僚	2	0.2%
f アルバイト先の日本人の上司・同僚	17	1.7%
g アルバイト先のお客	3	0.3%
h お店・交通機関・役所などの従業員	4	0.4%
i お店・交通機関・役所などの利用者	4	0.4%
j その他の人	36	3.5%
k 誰も止めてくれなかった	163	15.8%
l 言葉による嫌がらせを受けたことはない	712	69.1%
合計	1030	100.0%

▼ 嫌がらせ体験ありのみ

	度数	相対度数
a 日本学校の韓国人・朝鮮人の教員	13	4.1%
b 日本学校の日本人の教員	56	17.6%
c 日本学校の韓国人・朝鮮人の生徒・学生	12	3.8%
d 日本学校の日本人の生徒・学生	69	21.7%
e アルバイト先の韓国人・朝鮮人の上司・同僚	2	0.6%
f アルバイト先の日本人の上司・同僚	17	5.3%
g アルバイト先のお客	3	0.9%
h お店・交通機関・役所などの従業員	4	1.3%
i お店・交通機関・役所などの利用者	4	1.3%
j その他の人	36	11.3%
k 誰も止めてくれなかった	163	51.3%
l 言葉による嫌がらせを受けたことはない	0	0.0%
合計	318	100.0%



**Q8** ⑤あなたは、言葉による嫌がらせを受けたことを、周囲の人に相談しましたか。それはどのような人でしたか。(いくつでも○)

▼ 全体

	度数	相対度数
a 日本学校の韓国人・朝鮮人の教員	4	0.4%
b 日本学校の日本人の教員	22	2.1%
c 日本学校の韓国人・朝鮮人の生徒・学生	19	1.8%
d 日本学校の日本人の生徒・学生	43	4.2%
e 民族学校の韓国人・朝鮮人の教員	9	0.9%
f 民族学校の韓国人・朝鮮人の生徒・学生	17	1.7%
g 民族団体の人	11	1.1%
h アルバイト先の韓国人・朝鮮人の上司・同僚	4	0.4%
i アルバイト先の日本人の上司・同僚	10	1.0%
j 家族	123	11.9%
k その他の人	28	2.7%
l 誰にも相談していない	131	12.7%
m 言葉による嫌がらせを受けたことはない	712	69.1%
合計	1030	100.0%

▼ 嫌がらせ体験ありのみ

	度数	相対度数
a 日本学校の韓国人・朝鮮人の教員	4	1.3%
b 日本学校の日本人の教員	22	6.9%
c 日本学校の韓国人・朝鮮人の生徒・学生	19	6.0%
d 日本学校の日本人の生徒・学生	43	13.5%
e 民族学校の韓国人・朝鮮人の教員	9	2.8%
f 民族学校の韓国人・朝鮮人の生徒・学生	17	5.3%
g 民族団体の人	11	3.5%
h アルバイト先の韓国人・朝鮮人の上司・同僚	4	1.3%
i アルバイト先の日本人の上司・同僚	10	3.1%
j 家族	123	38.7%
k その他の人	28	8.8%
l 誰にも相談していない	131	41.2%
m 言葉による嫌がらせを受けたことはない	0	0.0%
合計	318	100.0%



**Q 8** ⑥注意してくれる人や相談相手があった理由、いなかった理由を、よろしければ具体的にご記入ください。(自由回答)

**Q 8** ⑦あなたは言葉による嫌がらせを受けてどのように感じましたか。(いくつでも○)

▼ 全体

	度数	相対度数
a 不快に感じた	232	22.5%
b 許せないと感じた	68	6.6%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	46	4.5%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	57	5.5%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	32	3.1%
f その他	27	2.6%
g 何も感じなかった	42	4.1%
h 言葉による嫌がらせを受けたことはない	712	69.1%
合計	1030	100.0%

▼ 嫌がらせ体験ありのみ

	度数	相対度数
a 不快に感じた	232	73.0%
b 許せないと感じた	68	21.4%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	46	14.5%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	57	17.9%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	32	10.1%
f その他	27	8.5%
g 何も感じなかった	42	13.2%
h 言葉による嫌がらせを受けたことはない	0	0.0%
合計	318	100.0%

**Q 8** ⑧言葉による嫌がらせを受けて感じたことを、よろしければ具体的にご記入ください。(自由回答)

**Q9** ①おおむねこの3年の間に、あなたは日本での日常生活のなかで、次のような体験をしたことがありますか。(1つずつ○)

	よくある	ややある	どちらとも いえない	あまりない	まったくない	合計
(a) 日本学校で、韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	16	119	52	160	683	1030
(b) アルバイト先で、韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	9	54	26	101	840	1030
(c) 不動産(マンションやアパート)を借りたり買う際に、韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	10	29	33	56	902	1030
(d) お店・交通機関・役所などで韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	12	57	57	102	802	1030

	よくある	ややある	どちらとも いえない	あまりない	まったくない	合計
(a) 日本学校で、韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	1.6%	11.6%	5.0%	15.5%	66.3%	100.0%
(b) アルバイト先で、韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	0.9%	5.2%	2.5%	9.8%	81.6%	100.0%
(c) 不動産(マンションやアパート)を借りたり買う際に、韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	1.0%	2.8%	3.2%	5.4%	87.6%	100.0%
(d) お店・交通機関・役所などで韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをした	1.2%	5.5%	5.5%	9.9%	77.9%	100.0%

**Q9** ②あなたは日本での日常生活のなかで、韓国人・朝鮮人であることを理由に嫌な思いをしたときにどのように感じましたか。(いくつでも○)

▼ 全体

	度数	相対度数
a 不快に感じた	260	25.2%
b 許せないと感じた	72	7.0%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	69	6.7%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	80	7.8%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	59	5.7%
f その他	37	3.6%
g 何も感じなかった	45	4.4%
h そういう体験はまったくなかった	624	60.6%
合計	1030	100.0%

▼ 嫌な思い体験ありのみ

	度数	相対度数
a 不快に感じた	260	64.0%
b 許せないと感じた	72	17.7%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	69	17.0%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	80	19.7%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	59	14.5%
f その他	37	9.1%
g 何も感じなかった	45	11.1%
h そういう体験はまったくなかった	0	0.0%
合計	406	100.0%

**Q10** ①おむねこの3年の間に、あなたは日本でネットを利用している時に、次のような体験をしたことがありますか。(1つずつ〇)

	よくある	ややある	どちらとも いえない	あまりない	まったく ない	合計
(a) 韓国人・朝鮮人を排除するなどの差別的な記事、書き込みを見た	301	304	53	91	281	1030
(b) 差別的な記事、書き込みが目に入るのが嫌で、そのようなネット上のサイトの利用を控えた	100	144	128	196	462	1030
(c) 自分のネット上の投稿に、差別的なコメントをつけられた	7	21	41	132	829	1030
(d) 差別を受けるかもしれないので、ネット上に自分のプロフィールを掲載するときも、韓国人・朝鮮人であることは明らかにしなかった	77	66	107	135	645	1030

	よくある	ややある	どちらとも いえない	あまりない	まったく ない	合計
(a) 韓国人・朝鮮人を排除するなどの差別的な記事、書き込みを見た	29.2%	29.5%	5.1%	8.8%	27.3%	100.0%
(b) 差別的な記事、書き込みが目に入るのが嫌で、そのようなネット上のサイトの利用を控えた	9.7%	14.0%	12.4%	19.0%	44.9%	100.0%
(c) 自分のネット上の投稿に、差別的なコメントをつけられた	0.7%	2.0%	4.0%	12.8%	80.5%	100.0%
(d) 差別を受けるかもしれないので、ネット上に自分のプロフィールを掲載するときも、韓国人・朝鮮人であることは明らかにしなかった	7.5%	6.4%	10.4%	13.1%	62.6%	100.0%

**Q 10** ②ネット上の民族差別的な表現（記事、動画、掲示板への書き込みなど）に対して、どのよう  
 感じましたか。（いくつでも○）

▼ 全体

	度数	相対度数
a 不快に感じた	576	55.9%
b 許せないと感じた	208	20.2%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	118	11.5%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	178	17.3%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	41	4.0%
f その他	77	7.5%
g 何も感じなかった	62	6.0%
h そういう体験はまったくなかった	269	26.1%
合計	1030	100.0%

▼ インターネット上での嫌な体験ありのみ

	度数	相対度数
a 不快に感じた	576	75.7%
b 許せないと感じた	208	27.3%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	118	15.5%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	178	23.4%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	41	5.4%
f その他	77	10.1%
g 何も感じなかった	62	8.1%
h そういう体験はまったくなかった	0	0.0%
合計	761	100.0%



**Q 11** ①おおむねこの3年の間に、あなたは日本で、韓国人・朝鮮人を排除するなどの差別的なデモ、演説活動をしているのを見たり、聞いたりした体験はありますか。(1つずつ〇)

	よくある	ややある	どちらとも いえない	あまりない	まったく ない	合計
(a) 路上などで直接見た	54	216	48	159	553	1030
(b) インターネットで見たと	214	341	60	99	316	1030
(c) テレビ、新聞、雑誌等のメディアを通じて見聞きした	153	350	100	107	320	1030
(d) 家族や知り合いなどから聞いた	82	210	96	163	479	1030

	よくある	ややある	どちらとも いえない	あまりない	まったく ない	合計
(a) 路上などで直接見た	5.2%	21.0%	4.7%	15.4%	53.7%	100.0%
(b) インターネットで見たと	20.8%	33.1%	5.8%	9.6%	30.7%	100.0%
(c) テレビ、新聞、雑誌等のメディアを通じて見聞きした	14.9%	34.0%	9.7%	10.4%	31.1%	100.0%
(d) 家族や知り合いなどから聞いた	8.0%	20.4%	9.3%	15.8%	46.5%	100.0%

**Q 11** ②このような差別的なデモ、演説活動についてどのように感じましたか。(いくつでも〇)

▼ 全体

	度数	相対度数
a 不快に感じた	584	56.7%
b 許せないと感じた	238	23.1%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	166	16.1%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	192	18.6%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	32	3.1%
f その他	84	8.2%
g 何も感じなかった	58	5.6%
h そういう体験はまったくなかった	250	24.3%
合計	1030	100.0%

▼ 差別デモ・街宣の体験ありのみ

	度数	相対度数
a 不快に感じた	584	74.9%
b 許せないと感じた	238	30.5%
c 日本で生活することに不安や恐怖を感じた	166	21.3%
d 日本人や日本社会に対する見方が悪くなった	192	24.6%
e 韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思った	32	4.1%
f その他	84	10.8%
g 何も感じなかった	58	7.4%
h そういう体験はまったくなかった	0	0.0%
合計	780	100.0%

**Q 12** おおむねこの3年の間に、あなたが日本で、韓国人・朝鮮人であることを理由とした下記のような出来事を体験することは増えましたか、それとも減りましたか。(1つずつ○)

	増えた	やや増えた	ほとんど変わらない	やや減った	減った	合計
(a) 韓国人・朝鮮人であることを理由にした言葉による嫌がらせの体験	15	51	526	95	343	1030
(b) 韓国人・朝鮮人であることを理由にした嫌な思いの体験	16	67	515	96	336	1030
(c) 韓国人・朝鮮人を排除するなどを目的とした差別的なデモ、演説活動を見聞きした体験	46	114	472	103	295	1030

	増えた	やや増えた	ほとんど変わらない	やや減った	減った	合計
(a) 韓国人・朝鮮人であることを理由にした言葉による嫌がらせの体験	1.5%	5.0%	51.1%	9.2%	33.3%	100.0%
(b) 韓国人・朝鮮人であることを理由にした嫌な思いの体験	1.6%	6.5%	50.0%	9.3%	32.6%	100.0%
(c) 韓国人・朝鮮人を排除するなどを目的とした差別的なデモ、演説活動を見聞きした体験	4.5%	11.1%	45.8%	10.0%	28.6%	100.0%

**Q13** おおむねこの3年の間に、あなたは日本で、韓国人・朝鮮人である自分を嫌だと思ったことがありますか。(1つだけ○)

	度数	相対度数
とてもよくあった	24	2.3%
よくあった	54	5.2%
どちらともいえない	158	15.3%
ほとんどなかった	205	19.9%
まったくなかった	589	57.2%
合計	1030	100.0%

▼ よろしければこのアンケートの感想を自由にご記入ください。(自由回答)